

## 輸入飼料価格高騰に係る畜産農家支援の取組

南丹家畜保健衛生所

○島村優理 今峰謙

【背景】近年、コロナ禍の長期化やウクライナ情勢等の影響を受け、輸入飼料価格の高騰により畜産農家の経営が悪化し、全国的に廃業が増加。府は、畜産農家の経営強化・改善等を支援するため、輸入飼料価格高騰対策緊急支援事業（補助率 3/4、補助額上限 200 万円又は 500 万円/農場）を創設し、当所では J A 等の関係機関と共に本事業の伴走支援を実施。【取組概要】管内の事業対象農家 62 戸 72 農場に対し、畜種毎に担当者を決め、各農場に要望調査を実施し、事業を有効に活用するための最も適した経営改善策を農場と検討。その後、事業に係る申請書類の作成から実績報告に至るまで支援を実施。【成果】緊急的に立ち上げた事業であることに加え、これまで家畜保健衛生所が補助事業に携わることが殆どなかったことから、当初は事業の推進等に課題が生じたが、最終的には事業対象農家の 80%以上となる 51 戸 60 農場が事業を活用。主な事業内容は、細霧装置や換気扇導入等による生産性向上（38 農場）、自給飼料の利用・増産等による飼料費低減（24 農場）、フォークリフトや飼料搬送機導入等による作業の効率化（25 農場）で、総事業費は 279,856 千円（税抜）、補助金実績額は 179,934 千円。事業を活用した農家からは経営の立て直しに役立ったとの声が聞かれ、廃業する農家は認められなかった。また、本事業を通じ、これまで家畜衛生分野に特化しがちだった職員の視野が広がり、農家との繋がりが一層強化された。